

報告者：平成 30 年度参加者

看護栄養学部 看護学科 2年 石田 菜々美
看護栄養学部 看護学科 2年 大草 歆枝

研修を振り返って

個人の旅行では味わうことができない貴重な体験が数多くあり、あっという間だったがとても充実した時間を過ごすことができた。韓国の人々の温かさに触れ、韓国のことがもっと好きになった1週間だった。また、一歩海外へ踏み出すことは、日本のことを客観視できる良い機会となり、日本の魅力の再発見・気づきにつながると改めて強く感じた。(石田菜々美)

韓国の文化を体験できたこと、そして様々な国の学生と交流できたことがとても楽しく刺激的だった。また、看護学専攻の学生も数名いたため各国の医療や看護師についての話もできた。現地では、日本語が話せる韓国の学生のサポートなどのお陰で、初めての海外渡航だったが安心して過ごせた。海外渡航の経験が無く、不安を感じている人は、ぜひこの研修に挑戦し、海外へ一歩踏み出すきっかけとしてほしい。(大草歆枝)



韓方について

大邱には、朝鮮時代(1658年)から続く三大韓方薬材専門市場である大邱薬令市がある。大邱薬令市は数百年間、韓国国内だけでなく、日本や中国、ロシア、ヨーロッパにも韓方薬剤を供給していた韓方薬材の流通拠点である。私たちは、大邱薬令市韓医薬博物館にて、韓方について学びんだ。韓方は植物だけでなく、トカゲやヘビなどの動物も薬材に使用していたことを知り、奥深さを感じた。



食の体験について

プルコギ、チムタク、キムバ、チーズタッカルビなど多くの韓国料理を体験することができた。韓国の味噌には唐辛子が入っているので、どの料理も基本的には辛かった。しかし、韓国料理には醤油もよく使われているので辛くもありつつ、日本人にもなじみのある味だった。韓国のキムチは日本で食べているものとは比べて酸味が強く、またお店によっても少し味が違っていた。



伝統文化の体験について

韓服、茶道体験、禅体験、漢方の匂い袋作りなど多くの伝統文化を体験することができた。禅を体験した場所は、周りが山で囲まれている自然豊かな場所であった。そこで、みんなで静かにあぐらをかきながらご飯を食べた。味覚をはじめ、五感が研ぎ澄まされる感覚を味わった。



生活環境について

日常の生活面での違いはあまり感じられず特に困ったことは無かった。唯一、日本との違いを感じたところは、トイレトペーパーを便器に流せないことである。街並みは、壁や電柱にかわいい絵が書いてあるなどのカラフルな景観が特徴的で、歩くだけでも楽しめた。また、ソウルなどの交通量が多い場所では、緊急車両に道を譲る様子が無かったが、このことによる緊急時の救命率への影響の有無が気になった。



多国間の交流について

今回の研修には、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、中国からの参加者がいた。そのため、様々な言語や国の違いも一緒に学ぶことができた。日本のこともしっかりPRできた。繋がりを深めることができたので、今後はお互いの国へ招待しあい、交流を継続して深めていきたい。また、海外の看護学生も参加しており、勤務状況の違いや勉強している内容などを話し合うことができた。



今後の課題

今回の研修期間中には様々な国の人との交流の機会があったが、言葉に詰まる場面もあった。今後は、もっと一人ひとりと深い話ができるように、普段から海外について興味を持ち続け、また、英語力を磨いていきたい。(石田菜々美)

今回の研修を通してもっと色々な国の人と交流したいと思うようになったので、まずは英語力を向上させていきたい。また、今回出来た韓国の友人と韓国語で話せるようになることを目標に、韓国語の勉強も継続して頑張りたい。(大草歆枝)